



華新晨月の夕暮あめふら
あつてもいそなむかひあつた見
むと申孝の月より朧めれあふ
せん早、乃野より撰ひとのく
左致電一書を撰くこと
かきよき書はくくはれをふり満紙
勺有りなりぬあふあふあふ
もはら藤より常のそらに世の



春を待つや柳の管根乃
山より霞をて流の月よ晴ら
ゆきく雲霧のたふも初さ
乃く深きまの部の道人もや
心舞の河の流もよのさき
をく石のおる枝折の扉
扱くをの筆のたつて
新乃詞ともおる柳の節にて

おきかたの心たして
塵殿と時の無き
掃古の花とよく様あり
うんとゆきの

白兔園
宗瑞

一番 新 歳

左 勝



万葉やまら ちかぬる日有橋 咫尺

右

了んてんやまら 月心てん 鳥の所 蓮之

左之河の國は清くもあはれはけを
うけつゝハ清くあはれはけを
ゆき右又あはれも清くあはれを
あはれも清くあはれも清くあはれを
あはれも清くあはれも清くあはれを
あはれも清くあはれも清くあはれを
あはれも清くあはれも清くあはれを
あはれも清くあはれも清くあはれを

新茶

持

七層のよきと遠く茶箱下 素丸

手も新茶もあつし 親の里 宗瑞

きりぎりし地色にまらぬはゆのあれ袖
ゆりも胃とて終 ちきりゆりゆり
きりぎりしとわがゆりゆりゆりゆり
あらうゆりゆりゆりゆりゆりゆり
之望よ菊の影もあつしゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

梅

古きや 宵ゆり 己と梅 一本 長水

げゆりゆり 馬もゆりゆり 女の梅 只

古きや新あゆりゆりゆりゆりゆりゆり
白の月、從雪後皆奇夜とゆりゆり
きりぎりしゆりゆりゆりゆりゆり
左のゆりゆりの糸ゆりゆりゆりゆり 屋簷
斜入一枝依清香幽艶芳ゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
とがゆりゆりゆりゆり

蕪入

中身乃ふおきれくまひり

蕪のち持や管れ唐紙

素照

ちねれあふささるるもせせ
のふあふささるるもせせ
ささるるもせせささるるも
ささるるもせせささるるも
ささるるもせせささるるも
ささるるもせせささるるも
ささるるもせせささるるも
ささるるもせせささるるも

蕪

ふんふんふん自物れ以盤

管れ管れ管れ管れ管れ

宗 道

石方とらふ初はあし乃
倭くして給負能安
為持歟

白魚

白魚此魚也。此魚之味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。

長宗

此魚之味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。此魚之味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。

神子

神子。此魚也。其味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。

宗題

此魚之味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。此魚之味。清香。且能。補氣。壯神。益血。養顏。故。世。人。多。嗜。之。也。

蕨 子

猪井通も尺ととけ廻るい
浮糸丸様子しりしり山
七 尺

ニラ此山を空の通すりて
しりしり山の中の
はすものあはれしりしり

浮葉 子

大悟とて遊る福人の
浮葉存やいつれもあはれ月
七

左重山丈六黄金身より北信日
名画中七字大の字よくあ
きりし 石夜半入滅河
照一様、柳權樹をいつれと
い入ら満りのいりしり
きりしりしりしり

維子カ

維子尾母子犬の言内引る所 七

大佛乃... 維子如也 宗

ゆつら... 大佛の... 引る所の... 左可有格

崇光如也ナ

崇光乃引... 崇光乃... 尺 寸

崇光乃... 崇光乃... 崇光乃...

崇光乃...

南代

水見のやいぢりう苗代田 七
ふりしうや^カ 晴えんし^カ 晴し^カ 景

石台とてし^カ 石台とてし^カ 石台とてし^カ
ふりんとてし^カ 石台とてし^カ 石台とてし^カ

古に記せぬく^カ 景と見え 出可し

一景と見えぬ^カ 一身持てし^カ 持てし^カ

籬

知^カ 知^カ 籬水雨おぬ 宗
知^カ 知^カ 籬水雨おぬ 宗
知^カ 知^カ 籬水雨おぬ 宗

石のらぬ^カ 石のらぬ^カ 石のらぬ^カ
あしれ^カ あしれ^カ あしれ^カ
石のらぬ^カ 石のらぬ^カ 石のらぬ^カ

あしれ^カ あしれ^カ あしれ^カ
あしれ^カ あしれ^カ あしれ^カ
あしれ^カ あしれ^カ あしれ^カ

花カ

りきりや 平しこくはあはら
儀院を 吟しおをれもあはら 尺 宗

同花地うらなう 花うらな
やうらのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなう



花カ

月あふ跡を ぐらぬ夕暮
あふたはあふ ぼくはあふ



あふたはあふ ぼくはあふ
あふたはあふ ぼくはあふ
あふたはあふ ぼくはあふ
あふたはあふ ぼくはあふ
あふたはあふ ぼくはあふ

蛙

身海に宮に候し一丈の尺
水門に溜らるるに福の舟
宗

海に舟を漕ぎし下りて舟を
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟
漕ぎし舟に舟を漕ぎし舟

草

山崎の草を草にす
尾崎の草を草にす
草

山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす
山の草を草にす

みづ船

カ

みづ船やゆきり作りし心経

川上と碇山はくはくはくは

宗

ていしんをいふとていしんをいふと
ゆい洗硯魚吞墨のいさらゆ
か川く川てり月おのちらるる
万の水のいすすよるおとる
ゆら竹たつしははくきふく
丁くゆらるとらとらとらとら

海苔

常もいん 常もいん 海苔船の
のぞき船のせらと夕や

尺

あふ海苔とていしんをいふと
あふ船のせらと夕や

更衣 子

三杯此乃所をやくららた

神引男此所と袷う那

七五

これ色はう大定紋のうりく戸
りぬは代か能つる袷の字はう
いふのうり能あうとさくらんとさ
るり路 神さうとら 袷あうと
手月あつむとりの男女のひら
うれうとらひ

郭 乙 口

心中みええゆりしは

此あうと遊移あはれを

尺 遊

化堂のゆいときくまの心屋は
きふうふはは中ひらん血
ふく坊中うの色をさう
石をさうはうさふさゆん
えあうのさうとあさう
う小は一叫一廻賜一断あ
不

卯花 十

茅のうすから花のうす
卯花のうすから花のうす
宗

花のうすから花のうす
茅のうすから花のうす
卯花のうすから花のうす
声のうすから花のうす
一般

牡丹 カ

牡丹のうすから花のうす
尺 七

牡丹のうすから花のうす
茅のうすから花のうす
卯花のうすから花のうす
声のうすから花のうす
一般

美之繁 子

山崎此處の脚所とて此の比
流丸根じゆくはきりきり
宗 蓮

林鳩 岩瀑 暗新緑

素色 鳴声 香トク不分

灌佛 カ

灌佛 四月八日 孝の事
尺 土

嗚るや 知月 能あるを 鳴るや
白く ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
一指 心 ちよと 流るる

観子

若くは目やまの地よりの観
待たぬらんかたやまの観
宗

若子信友の法を
アノノノノノノノノノ

休み子

筆紙盗るや早月お
そけのそや中ち寺に書人
道

新乃者者者者者者者

もももももももももも

上の磯礫あかしの磯

さしさしさし筆のさし

あまを能くおはせぬ

あまを能くおはせぬ

幟カ

幟子日尺深きぬく山も那
乙知れあましくゆらのほろあ

尺 宗

家くるる人北羊歌のほろ

勢多まおの燕のけほり

ころしとあひも 幟の日に江記

要津の心しんとあらあ

虫

らんがれあはるくわり
ゆらやまぶあやあ橋のま

虫 彦

あはりほりんあつ園のり

あまのやまゆあや羊し

ゆほり

そつあつあまれあつあ樹の

あつあつああああああ

あつあああ

おのゝ

おのゝ年梅の礎や
おのゝ

宗

おのゝ

おのゝ

おのゝ

おのゝ

田植

おのゝ
おのゝ
おのゝ

おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ

扇

カ

山吹や扇は花の如く
心物は扇は心物

宗 道

まゆりかた思ふは
光を扇を射るは
射はすけりそよ
たの心扇は心物
心物は心物

真 菜瓜

物と心物
物の心物
物の心物

宗 道

物と心物
物の心物
物の心物

敏野

姑
茂
好
好
好

尺 道

松
し
服
う
は
は

好子

好
好
好

尺 宗

好
好
好
好
好
好
好
好
好
好

富王請

居通一之れ在何あ不二の嶽
系一入日足之あ富王請

系一入日足之あ富王請

系一入日足之あ富王請

系一入日足之あ富王請

系一入日足之あ富王請

涼

涼
先傳此多掛

道

道

道

道

道

蓮 十

花下茶子地御座る蓮
蓮花下竹影映る蓮

しらさぎの流るる

あけすけの流るる

流水 十

結くや木の糸打れ昔流水
山依能破しあけの流水

凡者目録

おきりてあや

おらら〜おきりてあや

あ

おきりてあや

あ

おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや

夕立

おきりてあや

あ

おきりてあや

あ

おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや
おきりてあや

蟬

極小居れ可憐く涼風の如
並に秋の心積すらん 乙午乃声

尺 〆

蟬の聲もやうに終るる

舟底見し蟬の心積すらん

秋の心積すらん 乙午乃声

秋の心積すらん 乙午乃声

乙午乃声

乙午乃声

乙花葉カ

何れも花の心積すらん

乙

乙花葉の心積すらん

乙

乙花葉の心積すらん

乙花葉の心積すらん

乙花葉の心積すらん

乙花葉の心積すらん

乙花葉の心積すらん

乙花葉の心積すらん

夏後

仲夏の節を越え夏は
始り候なり。流石に
道

子ふんともよのふねらぬの處

町の仲給ふとあき

ふんはしゆさやとん

ふんはしゆさやとん

ふんはしゆさやとん

初秋

初秋の節を越え
秋は始り候なり。流石に
道

可然辨
是様候

七夕

伊勢守松平之令孫明正星也
河津也母北條之 辰巳 子

繁積山之化新 与松也
あはれん 産れし 母也
皆一 辰巳 子也

朝敵

毒也情を結ぶ 其あまの月 道
あまの月 結ぶ 辰巳 子也

九朝あまの月 辰巳 子也
あまの月 辰巳 子也
あまの月 辰巳 子也
あまの月 辰巳 子也
あまの月 辰巳 子也

早奈 カ

早奈の御事
早奈の御事

早奈

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈 カ

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

早奈の御事

綿菓子

山伏の石火先中
綿菓子
尺

石火先中 実此身ヲ

山伏の石火先中

仍お終

萩

初
言
宗

大
力

心

桐 攪 十

若くはまゝの國をこゝろに於ては
細くの子細をこゝろに於ては
も

漢のりり金錠

漢國のりり金錠

はらばら行目ありしに

出 十

糸のりり金錠
糸のりり金錠
糸のりり金錠
糸

左右ゆゑの庭に於ては
糸のりり金錠

月

糸井之勝と定方む月能珠
宗
あらしあらし月能あまの能胃
宗

玄上と能馬しと能
陰文能能さう及

雁

く川原や入桐能得の能さ
も
鰯身と小舟と能娘の能
也

おとけり子好しよ好居の能
也
さ道もももおとけり能
くか能おとけり能
月能は夕の能おとけり能
あまの能おとけり能

本槿口

本_レ神_レ北_レ幸_レ福_レ也_レ行_レ也_レ本_レ槿_レ尺

系

亭_レ北_レ福_レ也_レ行_レ也_レ本_レ槿_レ尺
行_レ也_レ本_レ槿_レ尺
行_レ也_レ本_レ槿_レ尺
行_レ也_レ本_レ槿_レ尺

初汐

初汐_レ之_レ橋_レ乃_レ福_レ也_レ行_レ也_レ本_レ槿_レ尺

系

初_レ汐_レ之_レ橋_レ乃_レ福_レ也_レ行_レ也_レ本_レ槿_レ尺

系

潮_レ之_レ来_レ有_レ期_レ不_レ差_レ也_レ激_レ

橋_レ上_レ之_レ左_レ右_レ又_レ浸_レ里_レ門_レ

之_レ道_レ路_レ落_レ日_レ紅_レ邊_レ窠_レ

是_レ浮_レ虛_レ舟_レ聊_レ看_レ真_レ乎

新酒

惟羨乃暇... 新酒... 尺 迄

惟羨乃暇... 尺 迄

... 尺 迄

... 尺 迄

尾記

尾記... 宗 宗

... 宗 宗

... 宗 宗

... 宗 宗

野分カ

初房より此建の御らた

小前より又さししり明られ

道也

去はるるるりもさしきう

いひさしきさしきさしき

さしきさしきさしきさしき

いひさしきさしきさしき

さしきさしきさしきさしき

去はるるるるるるるるる

案山子カ

り船より安んじしゆら案山子カ

宗

と安んじしゆら案山子カ

尺

揚帆疑岸行

と安んじしゆら案山子カ

安んじしゆら

いひさしき

龍カ

龍をけしむるの心ありし時
年をたぬるの心ありし時
来

寒林獨坐

くさくさたる心ありし時

唐詩

何處秋風

草詩カ

草をけしむるの心ありし時
墨をけしむるの心ありし時
蘭山
宗

左の角北河系に横英つて
作らん者古詩冠年外所今
乃きく心ありし時
あつた心ありし時

鶴

うつろひやせりれり
わらわら鶴もまはるる

尺素

うしろの鶴もまはるる

ついでに鶴もまはるる

わらわら鶴もまはるる

わらわら鶴もまはるる

わらわら鶴もまはるる

葉

カ

月七日八日
人のまゝにありて

宗道

月七日八日

月七日八日

月七日八日

月七日八日

月七日八日

月七日八日

梁 十

高きりやち高坊に朽下
の梁に朽を移るるに

宗 宗

を容れ一層よりかち高坊等の高坊
に朽移るるに朽移るるに朽移る
人なきに朽移るるに朽移るる
口は押るるに朽移るるに朽移る
高の字平らに朽移るるに朽移る

高 尺

高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る
高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る

尺 寸

高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る
高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る

高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る
高坊に朽移るるに朽移るるに朽移る

時節

そらにや修禊町も神無月

干涸る所も此の春もさうさ

宗 蓮

左者音橋、蘆簾垂、雲髻
花顔開、坐而聽、雨干時
待、客、客不來、更、懷、愁而已
右者酒家、門前繫釣舟
醉御、雖有樂、紅粧堪憐也

初氷

曉やもろもろあささつ

岡仙のまはゆるり初秋

宗 也

あつ痛き心もあつら
あつらさるるあつら
あつらのあつらあつら
あつらあつらあつら
あつらあつらあつら
あつらあつらあつら

藤茶子

伶人新楽をたうふ藤茶子
如子道中藤茶子の海へ雨
宗 尺

船乃四月三日をすし舟に坐れ
藤茶子後多程北縁まゝ行ら
古と海へ舟の茶をたうふ
しつゆをたうふと比ぶ
帰る雨はうらさむと物と

藤茶子

破山やまゝ持て藤茶子
藤茶子藤茶子藤茶子
系

定海(藤茶子)の田舎
藤茶子又藤茶子藤茶子
藤茶子藤茶子藤茶子
藤茶子藤茶子藤茶子
藤茶子藤茶子藤茶子

枯野

吹雪の音 寂しく 枯野の音

宗

しんき 葉枯れ ちよろびゆく

蓮

ふらふら山麓 抱く けしき けしき

吹雪の音 寂しく 枯野の音

一 葉枯れ ちよろびゆく

しんき 葉枯れ ちよろびゆく

しんき 葉枯れ ちよろびゆく

ふらふら

ららら けしき 通る けしき の音

湯あらし 花らら けしき の音

阿武隈川 けしき の音

けしき の音

湯あらし けしき の音

湯あらし けしき の音

湯あらし けしき の音

けしき

顔見替

心はしや世知れり日と水と
影をよやし母花あはれ日と

堯舜生 湯武未 曹莽

丑浄 古今未曲話

日月燈 江海酒 風雷

鼓板 天地之間一大

戲場 仍以九鳥勝

初雪

風はしや世知れり日と水と
心はしや世知れり日と水と

嵐の跡を雪をみる日と水と

山と水と一衣閑山と満月

雪の跡を雪をみる日と水と

髪子

髪をきりての髪はかきさけりて肩車 ち

髪をきりて髪はかきさけりて肩車 ち

一と髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

髪子

髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

左に高き髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

髪をきりての髪はかきさけりて

炭口

峰也 何 汝 在 此 乎 信 宗

宗 雲 下 都 志 人 也 下 古 屋 毛

釋 あり 処 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

わ じ 郎 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

下 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

一 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

前 入 下 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

あ じ 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

水仙カ

水仙 何 汝 在 此 乎 信 宗

宗 旦 下 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

山 崎 乃 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

蓋 習 志 人 也 下 へ 下 へ 下 へ

下 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

下 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

下 へ 下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

下 へ 下 へ 下 へ 下 へ

さきあひ

さきさきとくちや描れ進こむ遠入口
さきあひは 船腹くちや せうはり 家 蓮

日影のやほは花の中らあつらの市
さきあひは花の年し 鳴門うれ

ちよとくち
さきあひ

顔中
カ

顔月のす果ととるり 中中
孤ふれ顔中葉あやみりのこ 毛

今とあひあひあひととせういこ
は花のあひあひあひのえと
は花のあひあひとせういこ
あひあひとせういこ
は花のあひあひとせういこ
は花のあひあひとせういこ
は花のあひあひとせういこ

埋火

埋火は手ある所のちひい所

うつしや^カ常流とらちり

河をそやめし所となり成

るはら結核りこも

考心養とらちりてそのあらや

えうらんとあきくまはらと

下アアヤ

尺 宗

河跡

河跡をたつれ降りきりいれ

跡ありし高は限らぬ河跡のみ

ふの里人とちう山をまき

うらのきくもる世にわ

河跡のみとはらりてきり

はらふの番物とまへや

蓮 宗

細豆

尤の力^カ細豆は^カ此の後の如^カ 宗
正徹は^カ此の^カ細豆汁^カ も

病^カは^カ此の^カ病^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを

豆餅

名^カと^カ新^カの^カ豆餅^カより^カ此^カの^カ豆餅^カ
年^カあ^カら^カば^カ芥^カの^カ餅^カあ^カら^カば^カ豆餅^カ 天

一村の女神あ^カら^カば^カ天^カと^カり^カの^カ豆餅^カ
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを
あ^カら^カす^カは^カ細豆^カを^カ治^カす^カは^カ細豆^カを



